日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	供血者発場	供血者発場	
3-081206	A-0800817	2008/10/20	2008/11/4	新鮮凍結人血漿人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	8歳女	消化器疾患その他疾患	B型肝炎	08/03 08/03	HBsAg(-) (05/04) IgM- HBcAb(-) (05/06) HBsAg(-) (08/07) HBsAb(-) (05/07) HBV-DNA(-) (07/12) HBsAg(-) (08/03)	HBsAg(-) (08/07) HBV-DNA(+) HBeAg(+) HBeAb(-) (08/09)	-	-	保管検体15本全部HBV-DNA(-)	人血清アルブミン		24単位 4単位	8/15(7人はHBV関連検査陰性、1人はHBc抗体陽性かつHBs抗体陽性であり、当該献血時においても同様であった。)	2本の原料血漿、13本の赤血球濃厚液-LRを製造。	原料血漿はすべて使用済み。赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復			
3-081208	A-0800821	2008/11/5	2008/11/19	人赤血球濃厚液-LR新鮮凍結人血漿-LR	7歳女	循環器疾患その他疾患血液腫瘍	B型肝炎	08/06 08/06	HBsAg(-) (07/04) HBsAg(-) (07/06) HBsAb(-) (08/06) HBcAb(-) (08/06)	HBsAb(-) (08/06) HBcAb(-) (08/10) HBV-DNA(+) HBeAg(+) HBeAb(-) (08/10)	HBV-DNA(-) (08/06)	陰性(輸血前)陽性(輸血後)	保管検体6本全部HBV-DNA(-)		4単位 8単位	1/6(HBV関連検査陰性)	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LR、4本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿、結核血漿-LRは確保済み。	赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	重篤	未回復				
3-081301	A-0800824	2008/11/12	2008/11/25	人赤血球濃厚液-LR	4歳男	その他疾患	B型肝炎	08/09	HBsAg(-) (08/09) HBsAb(-) (08/09) HBeAg(+) (08/11) HBV-DNA(+) (08/11)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(+) HBeAb(-) HBeAb(-) (08/11) HBcAb(-) (08/11)	-	保管検体3本全部HBV-DNA(-)		3単位	0/3	-	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-		重篤	軽快			

日赤番号	3-08134	3-08142
識別番号	A-0800827	A-0800836
FAX受付日	2008/11/17	2008/11/27
報告受理日	2008/12/1	2008/12/9
一般名	新鮮凍結人血漿-LR 人赤血球濃厚液-LR	人血小板濃厚液(放射線照射)
患者性別	女性	男性
患者年代	20	50
原疾患	産科(出血)	血液腫瘍
感染症名	B型肝炎	B型肝炎
投与年月	08/08	08/09
投与前検査(年月)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	HBsAg(-) HBsAb(-) (08/04) HBeAb(+) HBcAb(+) (08/04)
投与後検査(年月)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(+) (08/11)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(+) HBcAb(-) IgM-HBcAb(-) (08/11)
日赤投与後検査	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(+) HBeAb(+) HBcAb(-) (08/11)	-
受血者個別NAT	陰性(輸血前)陽性(輸血後)	調査なし
献血者個別NAT	保管検体5本全部HBV-DNA(-)	保管検体2本全部HBV-DNA(-)
併用血液製剤等		
備考		
使用単位数	6単位 4単位	20単位
供血者再献血※	2/5(HBV関連検査陰性)	2/2(HBV関連検査陰性)
同一供血者製剤確保※	2本の原料血漿、3本の濃厚液-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み	2本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み
同一供血者製剤使用※	赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み	-
感染症状等転帰	重篤	重篤
転帰	軽快	未回復
発場及の供血適合の供管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		
発場及の供血適合の供管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		
供血者発場及の供血適合の供管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患名	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一供血症者製剤確保※	同一供血症者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発場	献血者発場
3-08124	A-0800814	2008/10/10	2008/10/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	70	血液腫瘍	B型肝炎	08/08-0908/08-10	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/10)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体7本全部HBV-DNA(-)	保管検体7本全部HBV-DNA(-)		報告対象外 調査結果を受けて担当医より副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える」とのコメントが得られた。	8単位 30単位	0/7	6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	重篤	軽快		
3-08125	A-0800815	2008/10/14	2008/10/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	血液疾患	B型肝炎	08/02-0608/08	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) (07/02)	HBsAg(-) HBV-DNA(+) HBsAb(+) HBcAb(+) (08/05) (08/07) (08/09)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体15本全部HBV-DNA(-)	保管検体15本全部HBV-DNA(-)		報告対象外 調査結果を受けて担当医より副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える」とのコメントが得られた。	28単位	7/15(HBV関連検査陰性)	8本の原料血漿、7本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は6本確保済み。新鮮凍結血漿-LRは5本確保済み。	原料血漿は2本使用済み。新鮮凍結血漿-LRは2本医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復		
3-08138	A-0800831	2008/11/20	2008/12/4	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	呼吸器疾患	B型肝炎	08/08	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) (08/11)	陽性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体2本全部HBV-DNA(-)	保管検体2本全部HBV-DNA(-)	人血清アルブミン	輸血前からの感染と考えられ、医師も関連を否定したため報告対象外 調査結果を受けて担当医より副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考える」とのコメントが得られた。	4単位	1/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。	-	重篤	不明		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	供血者発場 合の供血管 体(抗原、抗 体、NAT) (投与時 点)	供血者発場 合の供血管 体(抗原、抗 体、NAT) (投与時 点)
3-08147	A-0800840	2008/12/15	2008/12/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	腎・泌尿器系腫瘍	B型肝炎	08/05	HBsAg(-) (08/04) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (08/11) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/11) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/04) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/11)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体2本全部 HBV-DNA(-)			4単位	0/2	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	不明		
3-08149	A-0800842	2008/12/16	2008/12/26	人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結人血漿-LR	男	循環器疾患	B型肝炎	07/12	HBsAg(-) HBsAb(-) (07/03) HBsAg(-) HBsAb(-) (07/09)	HBsAg(-) HBsAb(+) (08/12) HBcAb(+) HBeAb(+) (08/12)	HBV-DNA(-)	陰性(輸血後)	保管検体19本全部 HBV-DNA(-)		6単位 30単位	12/19(HBV関連検査陰性)	3本の原料血漿、16本の赤血球濃厚液-LRを製造。	原料血漿は全て使用済み。 赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	非重篤	軽快			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	発血者発場との場合の供血検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	献血者発場との場合の供血検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-08135	A-0800828	2008/11/18	2008/12/1	人赤濃厚液(放射線照射)-LR	3女	0	血液疾患(産科出血)	C型肝炎	08/03	HCV-Ab(-) (08/03)	HCV-Ab(-) (08/07) HCV-Ab(-) (08/10) HCV-Ab(+) (08/10) HCV-RNA(+) 2a型 (08/10)	-	-	保管検体4本全部HCV-RNA(-)	ポリエチレン		8単位	2/4(HCV関連検査陰性)	4本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	未回復		
3-08137	A-0800830	2008/11/20	2008/12/3	新鮮凍結人赤濃厚液(放射線照射)-LR 人赤濃厚液(放射線照射) 人赤濃厚液(放射線照射)	5男	0	循環器疾患(腎臓、泌尿器疾患)	C型肝炎	08/07 08/07 08/07 08/07	HCV-RNA(-) (08/07) HCV-Ab(-) (08/07)	HCVコアAg(+) (08/10) HCV-RNA(+) (08/11)	HCV-RNA(+) (08/11) HCV-Ab(+) (08/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体30本全部HCV-RNA(-)	ポリエチレン グリコール処 理人免疫グロブリン		12単位 10単位 20単位 115単位	14/30(HCV関連検査陰性)	24本の原料血漿、6本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。	赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	重篤	不明		
3-09001	A-0800844	2009/1/9	2009/1/23	人赤濃厚液(放射線照射)-LR	5女	0	慢性腎不全(免疫系疾患)	C型肝炎	08/06	HCV-Ab(-) (08/01)	HCV-Ab(-) (09/01) HCV-RNA(+) (09/01)	HCV-RNA(+) (09/01) HCV-Ab(+) (09/01)	陽性(輸血後)	保管検体3本全部HCV-RNA(-)			6単位	1/3(HCV関連検査陰性)	3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。3本の新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-	重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発場及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	献血者発場及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																							
3-08129	A-0800822	2008/11/6	2008/11/19	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	6 女	肝・胆・膵腫瘍	C型肝炎	07/08 07/08	HCV-Ab(-) (07/07)	HCV-Ab(+) (08/10) HCV-Ab(+) (08/10)	HCV-RNA(-) (07/08) HCV-Ab(-) (07/08)	HCV-RNA(-) (08/10) HCV-Ab(-) (08/10)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体2本全部HCV-RNA(-)		2単位 1単位	1/2(HCV関連検査陰性)	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復		
3-08132	A-0800825	2008/11/13	2008/11/25	人赤血球濃厚液-LR	7 女	脳疾患	C型肝炎	07/05	HCV-Ab(-) (07/03) HCV-Ab(-) (07/05)	HCV-Ab(+) (08/11)	HCV-RNA(-) (07/05) HCV-Ab(-) (07/05)	HCV-RNA(-) (08/11) HCV-Ab(+) (08/11)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体1本についてHCV-RNA(-)		2単位	0/1	1本の原料血漿を製造。原料血漿は使用済み。	-	非重篤	不明		
3-08139	A-0800832	2008/11/21	2008/12/4	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	5 女	血液腫瘍	C型肝炎	08/01 -06	HCV-Ab(-) (08/01) HCVコアAg(-) (08/01)	HCV-Ab(-) (08/02) HCVコアAg(-) (08/07) HCV-Ab(+) (08/11) HCVコアAg(+) (08/11)	HCV-RNA(-) (08/01) HCV-Ab(-) (08/01)	HCV-RNA(-) (08/11) HCV-Ab(-) (08/11)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体14本全部HCV-RNA(-)	報告対象外 調査結果を受けて担当医より副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしとのコメントが得られた。	26単位	7/14(HCV関連検査陰性)	11本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は2本確保済み。新鮮凍結血漿-LRは2本確保済み。	原料血漿は9本使用済み。新鮮凍結血漿-LR 1本は医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復		
3-08144	2008/12/8 2008/12/22 報告破棄FAX	2008/12/8	2008/12/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	4 男	糖尿病 その他の疾患	C型肝炎	08/05	HCVコアAg(-) (08/05) HCV-Ab(+) (08/05)	HCVコアAg(+) (08/11) HCV-Ab(+) (08/12)	HCV-RNA(+) (08/05) HCV-Ab(+) (08/05)	HCV-RNA(+) (08/12) HCV-Ab(+) (08/12)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本(全部)についてHCV-RNA(-)	報告破棄 担当医より因果関係なしとの見解が得られた。	2単位	0/1	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤	未回復		

日赤番号	3-09006	識別FAX受付日	2009/1/27	報告受領日		一般名	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR新鮮凍結血漿	患者性別	40歳 男性	原疾患	循環器疾患	感染症名	C型肝炎	投与年月	07/07 07/07	投与前検査(年月)	HCV-Ab(-) (07/06)	投与後検査(年月)	HCV-Ab(-) (07/10) HCV-Ab(+) (08/07) HCV-Ab(+) (08/08)	日赤投与前検査	調査中	日赤投与後検査	調査中	受血者個別NAT	HCV関連検査実施予定	献血者個別NAT	保管検体4本についてHCV-NAT実施予定	併用血液製剤等		備考		使用単位数	4単位 4単位	供再献血者※	0/4	同一供血液保	4本の原料血漿、2本の赤血球MAPを製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	同一供血液製剤使用※	赤血球MAPIは全て医療機関へ供給済み。	感染症状等転帰	重篤	転帰	未回復	発場者との供血液保体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		発場者との供血液保体(抗原、抗体、NAT)検査値	
輸血によるHIV感染報告例(疑い例を含む。)																																															
(該当なし)																																															

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	供血者場合の供血管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発過及の発過供血者の検査値
3-08143	A-0800837	2008/12/2	2008/12/15	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	生殖器腫瘍 その他の疾患 血液疾患	急性肝炎・E型肝炎	08/04	-	AST266 ALT486 HBsAg(-) HBsAb(-) HCV-Abs(-) (08/05) 急性肝炎として点滴治療	HEV-RNA(-) IgM- HEVAb(+) IgG- HEVAb(+) (08/12)	陰性(輸血後)	保管検体1本(全部)についてHEV-RNA(+)	乾燥ポリエチレングリコール処理免疫グロブリン	同一供血者製剤の国内製業者による「血漿分画製造に係る原料血漿の精査」において判明した献血者HEV-RNA陽性の情報提供に對しての症例報告です。	2単位	0/1	-	-	非重篤	軽快		
3-08146	A-0800839	2008/12/15	2008/12/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	消化器腫瘍	肝機能異常・E型肝炎	08/04	-	AST59,ALT39	HEV-RNA(-) IgM- HEVAb(-) IgG- HEVAb(-) (08/04)	陰性(輸血前)陽性(輸血後)	保管検体1本(全部)についてHEV-RNA(+)	乾燥ポリエチレングリコール処理免疫グロブリン	同一供血者製剤の国内製業者による「血漿分画製造に係る原料血漿の精査」において判明した献血者HEV-RNA陽性の情報提供に對しての症例報告です。 患者検体と献血者(HEV陽性保管検体)とのHEV塩基配列について調査。	2単位	0/1	-	-	非重篤	不明		患者検体と献血者(HEV陽性保管管検体)とのHEV塩基配列を比較したところ患者と献血者の塩基配列は一致した。患者のHEVウイルスはGenotype 3であった。

日赤番号	3-08133	識別番号	A-08000826	FAX受付日	2008/11/17	報告日	2008/12/1	一般名	人赤血球濃厚液-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	患者性別	男	原疾患	血液腫瘍	感染症名	細菌感染	投与年月	08/11 08/11	投与前検査(年月)	BT 36.9°C	投与後検査(年月)	輸血終了抜針、悪寒戦慄あり(輸血前BT 36.6°C→輸血後BT 38.3°C)。院内にて実施の患者血液培養は陰性。	日赤投与後検査	-	受血者個別NAT	-	献血者個別NAT	-	併用血液剤製剤等	-	備考	被疑薬: 採血9日目の赤血球濃厚液-LR(1本) 採血3日目の照射濃厚血小板(1本)	使用単位数	2単位 10単位	供血者再献血※	-	同一供血者製剤確保※	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。すべて確保済み。	同一供血者製剤使用※	-	感染等転帰	非重篤	転帰	回復	供血者発場 適合の供血者(抗原、抗体、NAT) (投与時点)		供血者発場 適合の供血者(抗原、抗体、NAT) (投与時点)		供血者発場 適合の供血者(抗原、抗体、NAT) (投与時点)	
日赤番号	3-08141	識別番号	A-08000835	FAX受付日	2008/11/27	報告日	2008/12/9	一般名	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	患者性別	男	原疾患	肝・胆腫瘍	感染症名	細菌感染	投与年月	08/11	投与前検査(年月)	-	投与後検査(年月)	輸血開始後25分で38°Cの発熱。院内にて実施の患者血液培養によりグラム陰性桿菌 Enterobacter cloacaeを検出。	日赤投与後検査	-	受血者個別NAT	-	献血者個別NAT	-	併用血液剤製剤等	-	備考	被疑薬: 採血9日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より細菌感染と輸血関係なしと考える。このコメントが得られた。	使用単位数	2単位	供血者再献血※	-	同一供血者製剤確保※	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	同一供血者製剤使用※	-	感染等転帰	重篤	転帰	軽快	供血者発場 適合の供血者(抗原、抗体、NAT) (投与時点)		供血者発場 適合の供血者(抗原、抗体、NAT) (投与時点)		供血者発場 適合の供血者(抗原、抗体、NAT) (投与時点)	

日赤番号	3-08145	識別番号	A-0800838	FAX受付日	2008/12/8	報告受理日	2008/12/22	一般名	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	患者性別	70歳女性	原疾患	血液腫瘍	感染症名	細菌感染症	投与年月	08/12	投与前検査(年月)	輸血開始時、バイタル問題なし。	投与後検査(年月)	輸血開始約1時間後、BT36.3℃、BP180/105、P72、輸血中止。その後、輸血再開。血再開約1時間半後、BT38℃。その後、輸血終了。発熱あるも胸苦等なし。輸血終了約2時間半後、BT37.9℃、BP114/62、P90。輸血終了約4時間半後、P140台に上昇。悪寒、戦慄出現。BT39.5℃、BP124/82、HR140	日赤投与前検査	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施、適合。非溶血性副反応なし。	日赤投与後検査	-	受血者個別NAT	-	献血者個別NAT	-	併用血液製剤等	-	備考	被疑薬: 採血7日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より「輸血開始後の発熱、悪寒、ショック等の症状より副作用・感染症と輸血血液との因果関係あり」と考えられた。	使用単位数	2単位	献血者再献血※	-	同一供血者製剤確保※	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。確保済み。	同一供血者製剤使用※	-	感染症状等	重篤	転帰	軽快	献血者発場 及の供管検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		献血者発場 及の供管検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)		献血者発場 及の供管検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	
------	---------	------	-----------	--------	-----------	-------	------------	-----	-------------------	------	-------	-----	------	------	-------	------	-------	-----------	-----------------	-----------	--	---------	-------------------------------------	---------	---	----------	---	----------	---	---------	---	----	---	-------	-----	---------	---	------------	-----------------------	------------	---	-------	----	----	----	----------------------------------	--	----------------------------------	--	----------------------------------	--

日赤番号	3-08148	識別番号	A-0800841	FAX受付日	2008/12/16	報告受領日	2008/12/26	一般名	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	患者性別	7女	原疾患	循環器疾患 血液疾患	感染症名	細菌感染	投与年月	08/12	投与前検査(年月)	-	投与後検査(年月)	輸血開始時 BT35.8℃ BP102/56 P114 15分後BT 36.7℃ BP104/60 P90 輸血開始2時間 後 BT 38.3℃ BP102/58 P122 その後38.5℃台 を認め入院 3時間後 BT 39.0℃ BP150/80 P124 翌日BT37.4℃ 3日後BT38.2℃ 6日後BT36.7℃ 院内にて実施 の患者血液培 養にて Streptococcus vestibularisを検 出	日赤投与後検査	-	受血者個別NAT	-	献血者個別NAT	-	併用血液剤製剤等	-	備考	被疑薬: 採血9.12 日目の照射 赤血球濃厚 液-LR(2本) 2008/12/ 12に副作用 名「発熱・輸 血後溶血・急 性腎不全の 疑い」として 情報入手し 30日報告の 準備を進め ていたが12 月15日に患 者血液培養 より細菌が検 出されたとの 追加情報を 入手し細菌 感染も疑わ れるとの担当 医の見解が 得られたため 感染症症例 として報告す る。	使用単位数	4単位	献血者再献血	-	同一供血者製剤確保	1本の原料 血漿、1本 の新鮮凍 結血漿-LRを製 造。原料血 漿、新鮮凍 結血漿-LRは 確保済み。	同一供血者製剤使用	-	感染症等転帰	重篤	転帰	軽快	献血者発場 測及の供血 者保管検 体(抗原、抗 体、NAT) (投与時 点)	-	献血者発場 測及の供血 者保管検 体(抗原、抗 体、NAT) (投与時 点)	-
3-09002	A-0800845	FAX受付日	2009/1/9	報告受領日	2009/1/23	一般名	人血血小板濃厚液(放射線照射)	患者性別	8男	原疾患	血液腫瘍	感染症名	細菌感染	投与年月	09/01	投与前検査(年月)	BT36.1℃ BP140/- mmHg	投与後検査(年月)	BT38.6℃ BP90/-mmHg	院内にて実施 の患者血液培 養は陰性。	投与中止の 当該製剤(1 本)による細 菌培養試験 を実施予 定。非溶血性副 作用関連検 査実施予 定。	日赤投与後検査	-	受血者個別NAT	-	献血者個別NAT	-	併用血液剤製剤等	-	備考	被疑薬: 採血4日目 の照射濃厚 血小板(1本) 調査結果を 受けて担当 医より「細菌 感染と輸血 果関係なしと 考える」どの コメントが得 られた。	使用単位数	10単位	献血者再献血	-	同一供血者製剤確保	1本の原料 血漿を原 料血漿は 使用の有 無を調査 中。	同一供血者製剤使用	調査中	感染症等転帰	重篤	転帰	調査中	献血者発場 測及の供血 者保管検 体(抗原、抗 体、NAT) (投与時 点)	-	献血者発場 測及の供血 者保管検 体(抗原、抗 体、NAT) (投与時 点)	-

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について
(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内
調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H20. 12 ^{*2}	758, 005	97	1/7, 814
合計	1, 099, 179	142	1/7, 741

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳
別添